HPV ワクチン接種と子宮頸がん検診の勧め

がん検診って何のためにするか知っていますか？
「そんなの、がんを見つけるために決まっているじゃないか。」と思われた方、もちろん大正解です。

ここではがん検診について、もう一歩踏み込んで考えてみましょう。

がん検診の意義とは、がんの早期発見・早期治療によってがんによる死亡率を減らすことです。死亡率を減らせて初めて検診の意味があるのです。これまでの研究によって、検診で死亡率を下げられることが科学的に証明されているのは、胃がん、肺がん、乳がん、大腸がん、子宮頸がんの 5 つだけです。

＜今回は、子宮頸がんについて話をします。＞

子宮頸がんとは子宮頸部（子宮の腟寄りの部分）にできるがんです。性交渉によって感染する HPV（ヒトパピローマウイルス）が原因となり、多くの場合は 5～10 年以上かけてがんができます。HPV には多くの型があり、がんと関係があるのは 13～14 種類です。HPV ワクチン接種の目的は、HPV 感染を予防することで子宮頸がんを予防することです。特に初交前の接種による予防効果が高く、接種率の高い欧州では 90%近い子宮頸がんの減少効果が報告されています。中には HPV ワクチンによる副反応を心配されている方もいらっしゃるかと思います。ワクチン接種後に多様な症状を認めた方がいらっしゃいましたが、ワクチンを接種していない方にも同様の症状を認める方が同じくらいいらっしゃることがわかり、今ではワクチン接種との因果関係は否定的と考えられています。HPV ワクチンの有効性や安全性をご理解いただき、接種をご検討ください。

＜次に、子宮頸がん検診について説明します。＞

対象は 20 歳以上の女性です。腟鏡という器具で腟を広げて、子宮頸部をブラシで擦って細胞を採取し、顕微鏡で細胞の形を観察する子宮頸部細胞診と

いう検査を行います。検査時に痛みを感じる方は、小さい腟鏡を用いることで痛みを軽減できる可能性がありますので、申し出ていただくことをお勧めします。細胞診で異常が見つかると、狙い組織診という精密検査に進みます。多くの場合は異形成という前がん状態で見つけることができ、がんになる前に治療することができます。その場合、円錐切除術という部分切除で治療できるため、子宮を残して治療することができます。子宮頸がん検診には死亡率を減らすだけでなく、妊娠の可能性を残して治療できるメリットもあるのです。

【産婦人科診療部長　諏訪　　裕人】